

しのばず自然観察会より 2021-8 2021.08.04

2021 年 8 月の活動 不忍池定点観察 **残念無念ですが中止します**

~~2021年8月22日(日) 午前10時 不忍池蓮池南西端集合~~

7 月に東京都におけるコロナウイルス感染者数が激増し、上野公園がある台東区でも 6 月末からの週当たり陽性率(感染者数/PCR 検査を受けた人数)が 6.8%、13.4%、14.5%、22.7%、28.2%と増加の一途をたどっています。繁華街では夜通し酒を出す店があり、早朝には酔った人が路上で見られると聞きます。オリンピックの影響は検証されていないまま、関係者の感染は想定内と居直るオリ開催責任者もいます。人流は減った、パラリンピックでは観客を入れると言い張る政治家もいます。内憂外患の嵐が去るのをひたすら待つしかないのでしょうか？長期の不正義不公正は、総選挙までの我慢でしょうか？途中の交通機関や駅周辺で感染するリスクなどをにらんで、8 月の活動を中止します。

9月の不忍池定点観察は、一応、9月12日(日)に予定します。

集 合：2021年9月12日(日) 午前10時 不忍池蓮池南西端 緑の小旗あり
(野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り) 今回は雨天中止

*新型コロナウイルス感染状況によっては中止の可能性があります。

持ち物：筆記用具、双眼鏡、雨具 or 日傘 飲み物、マスク、敷物(必要な方は昼食)
解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚

7月の不忍池定点観察から

7月11日(日)の観察会は、午後から雷雨という天気予報でしたが、6名が参加しました。どんよりとした空模様に蒸し暑さでしたが、蓮の花がとても新鮮に感じられました。いつもは8月に蓮見をしていたのですが、今年は7月前半で蕾や咲き始めの花が多かったせいでしょう。カメラやスマホを向ける来園者も多数見られました。雲はだんだん薄れ、昼頃には晴れ渡りました。(ただ、帰宅後に激しい雷雨がありました。)

この日の意外性の第一は、下町風俗資料館の斜め前で、蓮池から岸に上がり植え込みの中に消えたアオダイショウ。50cmを超える長さでした(もしかしたら、1m近くかも)。ヘビは鱗を使って、垂直の岸壁でも登ります。

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円 ほかに行事参加費

2020年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ。

蓮池をまわった限りではほとんどがコシアキトンボ、ところがボート池では3か所で、ウチワヤンマが杭やロープに止まっているのが見られました。水面飛翔性のトンボですが、ボートが多数出ているので、避難していたのでしょうか。



上左：ハスの花 上右：ウチワヤンマ 飛び立っても水面上の同じ枯れ枝に戻ります



上↑：池から岸に上がるアオダイショウ
尾部は右下の岸壁にへばり付き、頭は左手の植込みの中に入っていました

鳥：カルガモ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワウ、スズメ、ハシブトガラス、ダイサギ
トンボ：コシアキトンボ。シオカラトンボ、ウチワヤンマ

セミ（鳴き声）：ミンミンゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミ

その他の動物：アオダイショウ、クサガメ、ミシシッピーアカミミガメ、コイ、ブルーギルの稚魚？

植物：タケニグサ（花・実）、ワルナスビ（外来、花）、ハンゲショウ（植栽、葉）、ミソハギ（植栽、花）、ハス（過去の植栽、花・実）、アシ（花穂が出始める）、フサフジウツギ？（外来、花） 写真は下↓

フサフジウツギはブッドレヤの名で観賞用として普及していますが、南アルプス仙丈ヶ岳や甲斐駒ヶ岳山麓の戸台川などの河川敷では1975年ころに侵入し、21世紀には低標高地の河原を広く占有しています。

この日のクライマックスは、またしても解散してから訪れました。意外性の第二は次ページで。



クサガメの産卵を見た

7月11日(日)12時過ぎ7月の例会が終わり帰ろうとした所、ボート池の桜の木の根元を数人の人達が見つめている。私も近づいて見るとカメが土を掘っているようだ。「カメの産卵だよ」という声が聞こえ、よく見ると後ろ足を交互に動かして土を混ぜている。時々首を振って真剣そのもの。足元の土はグジャグジャ濡れている。「カメが水を出したんだよ」の声も。今の時間なら小川先生、千恵子さんが公園内にいると思い告げにいった。それから3人で1時間以上の観察となった。カメは長い時間をかけて土を掘っていた。途中で先生が「白い卵らしいものが3個見えた」とおっしゃった。私は確認できなかった。穴をふさぐように土を運び、回りの土の高さと同じになると、さらに時間をかけて土を固めていた。最後は落ち葉をのせ産卵した所は回りの土と見分けがつかない。やる事を終えたカメは体の向きを変えてノソノソ歩き、何事もなかったかのようにボーンと池に飛び込んだ。大都会の真ん中で、生物の産卵を目の当たりにするよい日となった。(田代郁子)

【補足】

何人かの来園者が見守るなか、クサガメは後ろ足がすっぽり入るくらいの深さの穴を掘り、ときどき踏ん張るような顔の表情を見せました。やがて、カメは後ろ足で土をつかんだり寄せたりしながら、掘り上げた土を穴に埋め戻していきました。そのとき、カメは埋め戻した土を後ろ足で上から抑えて固めていました。埋め戻しが終わったあと、カメはなおも、周りの枯草などを寄せて土の上に集めました。もう、ここに穴を掘ったとは思えない復元状態です。この間、カメは後ろ足だけで作業し、決して振り返って目で見ることはありませんでした。

私たちが見ていたのは1時間余り、その前に土を掘る作業が30分くらいはあったのでしょうか。これらを終えて、カメはゆっくり歩いて池の中へ入りました。それから数分間、水面から頭を出してはじめて岸の方に顔を向け、その後水中に没しました。

(小川潔)



12:39 後足で土を掘っていた 13:36 カメが去った産卵場所は枯草/枯葉で覆われていた